

【①：はじめに…受験知識の重要性】

受験知識は、受験指導を行う上で必須です。とはいえ、受験知識といわれても一口に範囲が広すぎ、何を指しているのかというのは漠然としています。まず、新人講師として意識して欲しい知識としては、以下のようになります。

《受験知識》

○受験校についての基本知識

⇒学校名、所在地(最寄駅)、大まかな難易度(偏差値ランク)、校風、試験日程、大学進学実績、(場合により)高校進学条件、宗教校かどうか。

○受験パターンについての基礎知識

⇒志望校・学力別の押さえ校受験パターン、推薦入試についての知識など…。

○受験制度についての基礎知識

⇒入試制度に関する知識(特に高校公立入試改革)、公立中の通知表成績(内申)についての知識…。

○教育界全体に対する知識

⇒文部科学省の教育改革、新しい教育法、世界の教育事情など…。

これだけでもかなり広範になることがわかるはずです。もちろん最初からこうしたこと全てに熟知している講師がいるわけではないですし、長年やっているという講師でも、ついついバランスが偏り、「教育界全体」のことなどについては知らなかったり、あるいは過去の知識をそのまま今も使っている場合もあります。そしてもちろん、これだけでOKでもありません。少しずつ経験を積む中で、ベテランになればさらに求められる知識の質・量ともに高まっていくはずです。

ただ、まず我々が皆さんに求めたいのは、これから教育に携わる「プロ」になっていく皆さんに、こうした知識の大切さをわかって欲しいということと、これから多くの情報にアンテナを広げ、食欲に吸収してほしいということです。こうした情報は一度知れば終わり、というものではなく、むしろ不斷の努力でコツコツと身につけ、そして新しいものを入れ続けなければならないものです。子どもを預かり、その子の人生に影響を与える「講師」という仕事に就く以上、常に新しい知識が身につけていなければ、いつ大きなトラブルが起こるかもしれません。実際、ある私立高校がその年から併願推薦を全廃するということを知らず、前年までのように「君の成績ならここで推薦が絶対取れるから、あとは本命の都立でチャレンジ!」と指導した結果、滑り止めとなる学校がどこにもない状態で本命校を受験させることとなってしまう、その生徒を非常に不本意な二次募集校に進学させることになってしまった、というような話もあります。自分が預かった生徒を、そんな辛い

目にあわせたいですか? きっとそんなことはないでしょう。**生徒に大きな夢、つまり「志望校合格」を掴ませてあげるためには、我々講師もさまざまなことを勉強し、成長しなければなりません。**この冊子では、今の時点で皆さんに最低限必要な「受験知識」について、かいつまんで学んでいただきます。特に未経験の方は、就業までにしっかりと読み、生徒や保護者からの急な質問にあわてずすむよう、準備しておきましょう。また、すでに受験指導経験があるという方も、「復習」のために目を通してみてください。きっと忘れていたことや、おろそかにしていたことがあるはずです。

ただ科目のこと、入試問題のことだけ知っていても、それだけで合格できるほど受験は甘くありません。受験校について保護者や生徒からの質問にとんちんかんな答えを1つ返してしまうだけで、信頼は容易に失ってしまいます。「中学の勉強なんて簡単だ」と内申のことを全く考慮しない発言をしたりすると、生徒の退塾という事態になりかねません。学校のことを知らなければ、受験パターンについてアドバイスをすることもできません。どれだけ偏差値では志望校に届いている子でも、事前に滑り止めの学校を受験させ、安心させてあげることで、ようやく実力を発揮できるのです。

こうしたことは、全て「受験知識」によるものです。

ここまで読んだ方であれば、受験指導における受験知識の大切さが、改めてわかってもらえたのではないのでしょうか。それでは、次のページから、中学入試、高校入試、そして教育全般についての知識について、学んでいきましょう。

ただ、これで「終わり」ではありません。研修でもやりましたが、「受験知識」はその塾や校舎・教室の場所、そして担当するクラスのレベルなどにより、求められるものが大きく変わっていきます。だからこそ、**ここで学ぶのはあくまで「土台」**にあたるものであり、あとは皆さんが派遣されるそれぞれの職場において、**その塾、校舎・教室に合った受験知識を身につけて頂く必要があります。**特に受験パターンや、近隣の公立中学の事情などは、実際に派遣されて、生徒を担当し、保護者から事情を聞き、先輩講師から学び、ようやく分かってくることです。

この「たゆまぬ努力」を続け、皆さんが生徒や保護者から信頼され、感謝され、そして名実ともに「良い講師」になってくれることを、切に願っています。

【②：中学入試事情】

《1：中学入試のメリット・デメリット》

中学受験とは、入学試験を受けることで、近隣の公立中学ではなく、私立や国立中学校に進学することを意味します。ご存知のとおり **中学校は義務教育なので、あえて受験をしなくても進学はできます。**それをわざわざ何年も受験準備をして、高い費用をかけて中学受験をするのはなぜでしょうか？

< 中学受験をするメリット >

- ・ **中高一貫教育**のため、学習内容に無駄がなく、全過程を早期に終えることができる。
大学進学実績は公立高校に比べ圧倒的に高い。
- ・ 科目により、**学力別・習熟度別クラス**があり、各自に合った環境で勉強ができる。
きめの細かい指導と、能力に合った環境により**成績の伸びが多数人数指導よりも大きい。**
- ・ **少人数制**により、先生ひとりあたりの生徒人数が少なく、目が行き届きやすい環境。
いじめや学級崩壊など、公立で頻繁に起こることが「**起こりにくい**」。
- ・ プール・校庭などの施設、空調設備、特別教室などが充実。
教育に適した環境。
- ・ 画一的でなければならない公立中学に比べ、「**建学の理念**」により**学校の個性が明確**。
進学重視、スポーツ校、宗教校など…。
- ・ **実力だけで合格**できる。複雑なシステムもなく、小学校の成績も関係ない。
高校受験は多くの場合中学の成績がからむため複雑化。

他方、デメリットもあります。逆に言えば、保護者達はこうしたデメリットも考慮したうえで、子どもを塾に通わせ、そして私立・国立中学に進学させるメリットを感じているということです。

< 中学受験をするデメリット >

早期からの準備が求められる。自宅学習では難しく、基本的に**通塾が必要**。

金銭的負担だけでなく、子どもにも**肉体的、精神的負担大**。

子ども自身の意志での受験希望は少なく、初期は「**保護者主導**」。

目標校への意識が子どもに芽生えるのは小5～6。それまでは保護者リード。

附属校進学の場合、**大学まで決まってしまう**。

選択の余地がない。(例:早稲田の附属進学 医者になれない。早稲田に医学部がないので)

子どもの精神的・肉体的成長が追いつかないことも。

子どもにより、高校受験に切り替えたほうがいいのかも(教室長や主任判断が必要)。

まず我々は、こうした実情を踏まえ、保護者がさまざまな負担を負いつつ、それでも「我が子のために」と思い、高い学費を払って子どもを塾に送り出している、という事実を明確に認識する必要があります。そして、基本的に子どもは先生を選ぶことはできません。だからこそ、我々は子どもや保護者の期待にこたえられる講師にならなければならないのです。

《2: 中学入試を巡る現状》

ここでは、昨今の中学入試のトピックを挙げ、指導をする上で最低限恥をかかないだけの知識を身につけて頂きます。

[トピック 1] 中学受験率

平成 18 年 1 月～2 月に行われた 1 都 3 県の中学受験率は、「受験者数」÷「1 都 3 県の小 6 人口」で計算すると、**約 16%**となります。この受験率の数字は年々確実に増加しており、現在「少子化」が進んでいる中でも、受験率の増加のため、受験者数は横ばい、ないし年度により微増している状況です。

【ポイント】

世田谷区などの地域では、受験率は 20%以上。小学校やクラス限定であれば、8 割が受験であったり、クラスの中で 3 名しか受験しない人はいない、などということも。近年、埼玉、千葉を中心に新設校もできるほど、中学入試はホットな状況。

理由として、間違いなく文部科学省の指導要領が迷走しているため「公教育の先が見えない」感に、保護者の不安が募っていることがあるだろう。ただし、塾講師として面と向かって公教育批判はできない(生徒保護者に学校教員がいるかも知れないことも考慮)ので注意。

また、近隣の公立中学に対する不安もある。いじめや人間関係、および部活動が活発でないなどの理由から、亡命的な理由で中学入試をさせる保護者も増えている。

少子化の進行により子どもひとりあたりにかけられるお金が増え、それにより子どもを私立に通わせる選択をできるようになったことも理由の一助である。

[トピック 2] 公立の中高一貫校が東京に誕生

2005 年 1 月に台東区の旧都立白鷗高校が、都内初の「中高一貫公立校」として「適性検査」を実施しました。ここでいう適性検査とは、要は入試のことであり、公立学校の安価な費用で一貫教育が受けられるということで、数倍の倍率となった。2006 年にはさらに 4 校が一貫校に。今後も各地に設置される予定。2006 年の受験でも非常に高人気となった。

【ポイント】

これまで受験といえば私立・国立だけだったところに、別の選択肢ができた点は把握しておく必要がある。ただし、公立とはいえ、上記のように高倍率になるので、一概に

「誰でも行けるわけではない」ことに注意。**安易に保護者に勧めないこと**。特に小学校の通知表が悪い子には不利なシステムであることは注意。試験問題は記述主体の非常に個性的な問題であり、別途対策が必要。**塾によっては「中高一貫校対策講座」を設けているところもあるので、自分の塾の中高一貫校に対するスタンスを確認すること。**

[トピック3]2科から4科へ

かつて「2科の名門」といわれた早稲田実業(早実)も完全4科となり、青山学院(青学)も2科4科選択制と云いつつも、ほぼ4科でないと合格できない状況になっています。

【ポイント】

もともと**超上位校は4科**でしか受験できなかった。理由としては特に**5教科受験が必須の国立大学への進学実績を出すためには、早期から理社の勉強をしていた生徒を確保したいから**、ということがある。現在、多くの学校が生き残りをかけた経営をしており、そうした状況において、**より優秀な生徒を確保したい**ということで、4科化が進んでいる。特に**男子の場合は4科でないと「受けられる学校があまりない」**ので注意。ただし、**女子の場合は**そうでもなく、むしろ伝統校を中心に「受けやすさ」をアピールするためにも**2科受験校の数は多い**。逆に言えば、**女子は「小5の後半、新小6からの受験準備でも、学校さえ選ばなければ準備が間に合ってしまう」**ということ。

《3:最低限知ってほしい用語》

ここでは中学入試に関して、最低限知っておいて欲しい用語などをまとめます。ひとつひとつは簡潔にしますので、確実に読んで下さい。

[塾名]

- ◆「**SAPIX**」…**上位校に抜群の実績**を出す塾。現在御三家合格実績1位。**膨大な宿題**を課す。
- ◆「**日能研**」…合格実績でサピックスと1位を争う。**中学受験生の生徒数は全国1位**。出版物の質も良く、ブランドとして保護者からの信頼もある。
- ◆「**四谷大塚**」…もともとテスト塾だったが、現在ではテストを主催しつつ、自ら塾もやっている。**YTというテストゼミ**は、母体が大きいため志望校判定テストへの信頼は高い。独自作成のテキスト『**予習シリーズ**』は市販もされており、非常に信頼されている。平成18年に「東進ハイスクール」の母体「ナガセ」に買収される。
- ◆「**早稲田アカデミー**」…**体育会系**と言われるように元気があり、面倒を見る塾。早稲田系には非常に強い。
- ◆「**市進**」…千葉の公立高に抜群の実績を出す塾。現在は都内を含むかなり広範囲に展開。
- ◆「**栄光ゼミナール**」…展開校舎数、売り上げなどの規模が No.1。出版部門も強く、作成している教材なども非常に良質。

[学校名]

- ◆ **御三家**…男子・女子の都内私立名門校を指す用語。男子の「開成」「麻布」「武蔵」、女子の「桜蔭」「女子学院」「雙葉」を指す。この6校については、最寄り駅や試験時間、出題傾向など、一番質問されることが多いはずなので、調べておくこと。試験日は全て2/1。最近では男子の武蔵は進学実績が振るわず、一部塾では武蔵を外し、駒場東邦を加えるところもある。
- ◆ **開成**…東大進学者数全国1位の学校。御三家の中で唯一高校募集もしている。西日暮里。
- ◆ **麻布**…御三家の1つ。記述校として有名。広尾。
- ◆ **武蔵**…御三家の1つ。癖のある記述で有名。対策はかなり難しい。自由な校風。江古田。
- ◆ **桜蔭**…女子の東大進学者数全国1位。菊川怜の出身校として話題に。水道橋。
- ◆ **女子学院**…別名 JG とも略される。プロテスタント系なので 2/1の受験日が日曜のときは受験日を2/2にずらすことで有名。この年だけは女子は御三家ダブル受験ができる。麴町。
- ◆ **雙葉**…お嬢様校として有名。国語で必ず感性に訴える詩の問題を出すことで有名記述対策が必須。四谷。
- ◆ **筑駒**…国立。筑波大学附属駒場の略。日本最難関の男子中。東大駒場キャンパスの近く。
- ◆ **慶応中等部**…慶応の附属。2005年まで2/5に試験実施。日程が遅いため、上位校に合格した生徒の記念受験が多く、競争は激戦。2006年の受験から2/3(国立受験日と同じ)に受験日をずらし、それにより受験勢力図がだいぶ変わった。女子の募集数は非常に少なく、「女子最難校」としても有名。試験問題は基本ばかりで、高得点での競争となる。
- ◆ **渋幕**…千葉最難関の私立。共学。正式名「渋谷教育学園幕張」。1月受験のため、御三家志望の生徒が殺到し、毎年激戦に。癖のある出題。渋谷に姉妹校「渋谷教育学園渋谷」(別名「渋渋」)あり。スポーツも非常に活発。

[それ以外の用語]

- ◆ **午後受験**…最近流行の受験パターン。2/1や2/2といった本命校受験が多くある時期の午後に(大半の試験は午前中で終了)、中堅～下位校が試験を設け、それによって上位生に「押さえ校」として受けてもらう、というもの。学校側としては「受験料の確保」「優秀生の獲得(彼らが上位校に不合格になった場合入学してくれる可能性が出てくる)」というメリットがあり、受験生側としては、「早期に押さえ校を獲得できる」というメリットがある。近年では午後受験が主流化し、以前のように「入りやすい」というものではなくなってきたのでしっかりと研究する必要がある。
- ◆ **他県受験**…都内と神奈川の私立受験が2/1から開始であることを踏まえ、千葉・埼玉は1月から始まるので、そちらを「事前受験」として「力試し」「押さえ校」として受けるというもの。遠方での受験のため、敬遠する保護者もいるが、本命校の前に力試しをしたいという生徒もおり、数多くの受験生が参加する。そのため、この時期の千葉・埼玉受験の受験者数は跳ね上がっているが、必ず合格者が進学するわけではないので、倍率自体はかなり抑えられる。また、近年は関東以外の遠方の中学が、都内の学校・ホテルなどを借り切

って受験をさせるなど、「模擬試験感覚で受けられる入試」が増えており、活用しない手はない。

◆**合不合判定テスト**…四谷大塚が主催する志望校判定用模擬試験。毎年9月～12月までの毎月1回ずつ実施。継続的に受験させることで、志望校判定のためのデータを蓄積するために使用する。他にも日能研主催のもの、他の模試業者主催のものなどがあるので、生徒の学力レベルに応じて受け分けをさせること。

◆**ダブル出願**…同一日程で複数の学校に出願をしておき、それ以前の日程で判明している合否結果により、どちらを受けるかを決めるというもの。特に試験が多い2/2～2/4くらいまでは、これを活用することも考慮できる。ただ、受けなかった学校の受験料は掛け捨てになるので、その点については保護者にも了承を取る必要がある。また、ご家庭の財務状況なども考慮すること。

◆**カトリック系**…キリスト教系。旧教。

◆**プロテスタント系**…キリスト教系。新教。カトリックとプロテスタントは区別を明確にしないと、考え方が異なるため、一概に「キリスト教系」と考えていると熱心な保護者のこちらの無知をさらすことになる。**プロテスタント系は試験日が日曜である場合は、休息日にあたるため別日程にずらす**ことも把握しておくこと。特に2/1が日曜の場合は、女子の名門女子学院が2/2にずれる(この年のことを「**サンデーショック**」と言う。2004年2月がそうだったので、例年の受験パターンが通じなくなるので注意。

◆**仏教系**…意外なところが仏教系であることが多いので注意。柔道の名門世田谷学園も。

◆**宗教系**…前述した通りだが、共通するのは「**女子はこだわることが多い**」「**プロテスタント・カトリックの区別は明確に把握を**」「**宗教系を嫌う保護者はいる**」ということ。また、**生徒に「おまもり」などをあげる場合、「宗教上問題がないか」の確認をしておいたほうが良い。**

◆**インターネット発表**：最近では合否結果を**当日発表**するところも多く、直接見に行かなくてもいいようにネット発表してくれるところが多い。

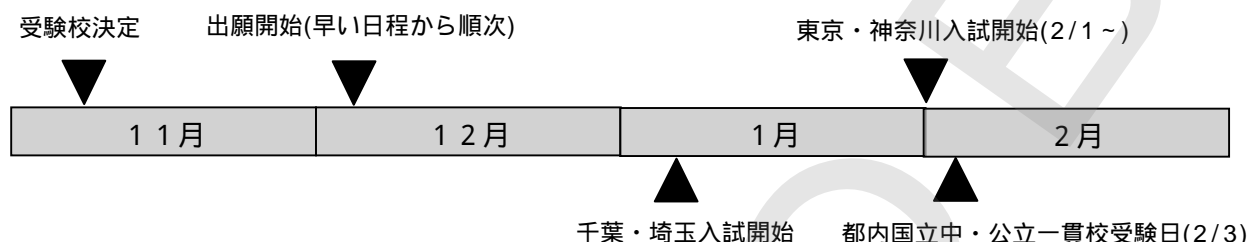
◆**過去問**…大学受験における「赤本」のようなものが中学入試でも出版されている。ただ、複数の出版社から出ており、どれにすればいいのか保護者から質問を受けることも。基本的には「**声の教育社**」というところから出ているものが一番信頼はできる、というのが定説。ただし、中堅校以下のところは解答・解説が信用できないことがある。特に記述問題などは、**一概に解答・解説を無条件に信頼しないこと**。また、**年末頃になると売り切れ**になったりするので、保護者には「受ける可能性があるところは早めに購入しておいてください」と伝えておくこと。**一部の学校のものは発売されていない**(広尾のお嬢様校「聖心女子」など)ので、要注意。

《4:受験パターンと受験日程》

ここでは、中学入試の試験日程について確認するとともに、そこから逆算してそれぞれ

の時期の動きと、受験パターンの組み方について確認します。

[受験日程]



[日程から逆算しての動き]

- **夏中**：生徒の学力把握→夏以降の模試のランクを決める+志望校を考えるデータとして。
- **夏後半**：9月からの模試の出願を順次。**締め切る前に早めに申し込むこと**。塾ごとに模試出願締切日の確認。
- **9月～12月**：模試を毎月受験。敬遠しようとする保護者には、「**データがなければ志望校判定ができない**」ということで受験をお願い。それでも嫌がる保護者がいたら、**主任や専任、あるいは教室長に相談**の上対応。保護者の逆鱗に触れないように。
- **11月上旬～**：順次保護者面談などで志望校確定へ。この時点では「完全確定」ではなく、第一志望と押さえ校についての基本合意でいい。**微調整は2月の試験中まで続く**。模試の成績がある程度出はじめてからやらないと意味がないので、このくらいの時期からになる。また、**作文が受験校にある場合**などは、このあたりから少しずつ対策をしておかないと間に合わなくなる。ただ、作文対策は早すぎても国語力が固まっていないので意味がないことも多く、その兼ね合いが大変。**過去問についてはおおむねこのくらいの時期から始めさせれば問題ない**。塾によりやらせる時期は異なるので確認すること。ただし、あまり早くやらせすぎても結果として力がついていないため全く結果が出せない、そのため自信喪失などにつながる。遅すぎても本命校のやり直しができないなど、トラブルにつながる。そして、**押さえ校の候補については、極力年内に1度時間を作って見に行ってもら**う(保護者だけでいいので)こともお願いしておく。そうでないと、あとで急に受けることになった場合、保護者も学校の場所を知らない、というようなことになってしまう。
- **12月～**：**出願順次開始**。1月受験の場合は冬休み前に出願となる。2月の本命校については1月に入ってからのところも多い。このくらいの時期から**ネットなどで倍率や出願者数が公開される**ようになるので、保護者が心配で相談してくることが出てくる。なお、出願のためには**小学校に必要書類を出してもらわないといけない**ことがあるので、極力このくらいまでの時期にはだいたいどこを受けるかは決めておくことが望ましい。
- **1月～**：**千葉・埼玉受験スタート**。この時期からは**宿題などはあまり出せなくなる**ので、

やるべきことはだいたいそれより前に仕上げておくこと。あとは**健康管理・メンタル管理**などにも比重を。また、面接がある生徒などには、**12~1月の間には面接練習**もしてあげないといけないので、志望校に面接があるかどうかは確認しておく。ここで力試しで受けた学校や押さえ校に厳しい結果が出た生徒に対しては、**かなりきめ細かいフォロー**が必要になる。場合により**精神的にもろい子には、事前受験で上位校は受けさせないなど、対応も必要**。合否確認をネットで行えるようにするためにも、**受験番号については生徒から回収**しておくのも有効な方法。そして、この時期は保護者には「受けないかもしれないけれども、押さえ候補になっている学校」についても、**願書や必要資料を準備しておいて貰う**こと。注意しておくべきこととして、このくらいの時期から保護者が「子どもに十分な学習時間を取らせるため、**学校を休ませる**」という選択を取らせようとするケースがある。学校側でもそうした保護者が多いことから、休むことを前提にしているところもある。塾によっては方針として学校を休ませるところもあるので、**方針は確認**しておくこと。ただし、受験期を前に長期休みをしてしまうと、家でずっと勉強になってしまい息抜きもできず、結果として精神的に追い詰められてしまうこともある。なので、**基本的には極力学校には通わせ、塾にも来させ、精神的に安定した状態で直前期を過ごさせるようにしたほうが良い**。

- **2月1日**：ここからが本番。**多くの生徒がこの日は本命を受けている場合が多い**。中学入試は即日結果を発表するところがあるので、**この日は夜まで校舎待機していることが望ましい**。
- **2月2日~4日**：早い生徒の場合、2/2くらいで受験終了になることも。塾により、本命に受かった生徒にも塾としての実績を出すために「受けさせる」ことがあるので、塾としての方針は確認しておくこと。また、この時期は「**合否確認**」「**不合格だった生徒・保護者へのフォロー**」「**受験校確定のための面接**」が特に大切。塾によっては中学生への授業をこの時期は行わないなどの対応をしてくれるところもあるが、この時期も普通に授業をやっている塾もあるので、そういう場合はかなり時間をタイトに使うことになる。注意すべきは「**合格者に時間を使いすぎない**」ということ。例えば不合格者と合格者と同じ時に塾に来たとして、仮に合格者と喜び合っているときに不合格者が泣きながら来たとしたら？ 確実に不合格者は気まずくなる。だからこそ、場合により「合格者は2/4まで塾に来ない」など、合格者よりも不合格者対応に集中できる環境を事前に告知するなどして作っておくべき。また、それでも不合格が続く場合などは、**押さえ校候補の中から2/5以降も受けられる学校、急に出願できる学校**(当日出願ができるところも意外とある)なども考えていただき、とにかく子どもの心に傷を残さないためにも、「**1校だけは合格しておきましょう!**」というスタンスで対応。

[受験パターンの組み方]

受験パターンを組む場合、必ず考えることは「**偏差値**(1度の試験だけでなく、**平均値**で

考えることが大切。それによりムラがなくなり、より確実な判定ができる)」「過去問演習の結果」「本人の性格」「保護者の意図」など。それらを総合的に加味して確定していくもの。ただし、注意すべきはこちらから「この学校を受けてください」的な発言は極力控える、ということ。もちろんそういう進路指導をする塾も多いけれども、場合によっては「あの先生から受けろといわれて受けて進学したが、ぜんぜんいい学校ではなかった。責任を取れ！」などといわれることも考えられる。なので、あくまでこちらからはアドバイスに努め、最終的な選択は保護者・当人にゆだねる、という方向性で行うべき。

ただし、志望校を確定させる方向性としては、修正すべきだ、と保護者に提案しなければならぬこともある。その場合はだいたい以下のようなとき。

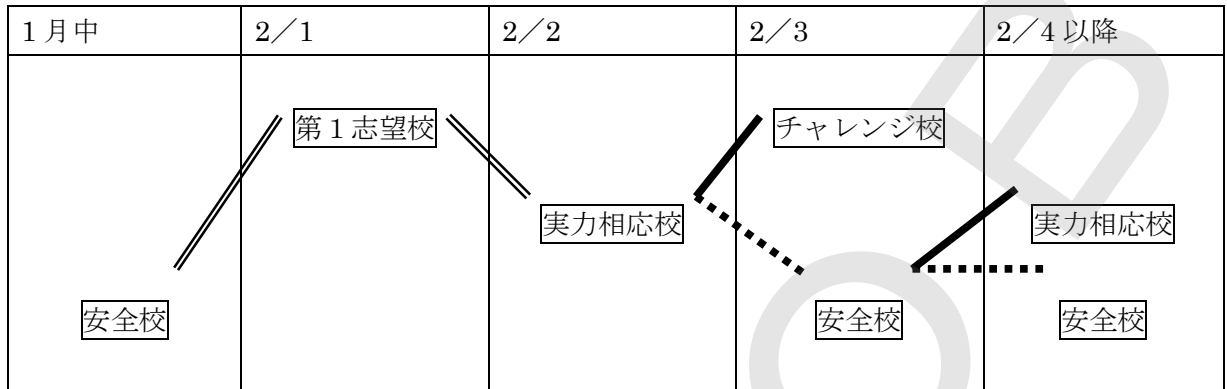
< 保護者に再考を促すべき場合 >

- ◆ 実力から言えばチャレンジ校(偏差値平均値から + 5 以上)ばかり並んでいる時。
- ◆ 本人の性格と全く異なる志望校の場合(本人：おとなしめ 志望校：体育会系)
- ◆ 試験形式が本人の傾向と全く異なる場合(本人：記述苦手 志望校：記述校)
- ◆ 確実に全滅が予測できる場合(押さえ校ゼロ)
- ◆ 本命校の前に 1 校も受験していない場合(2/1 が本命なのにそれが初受験)

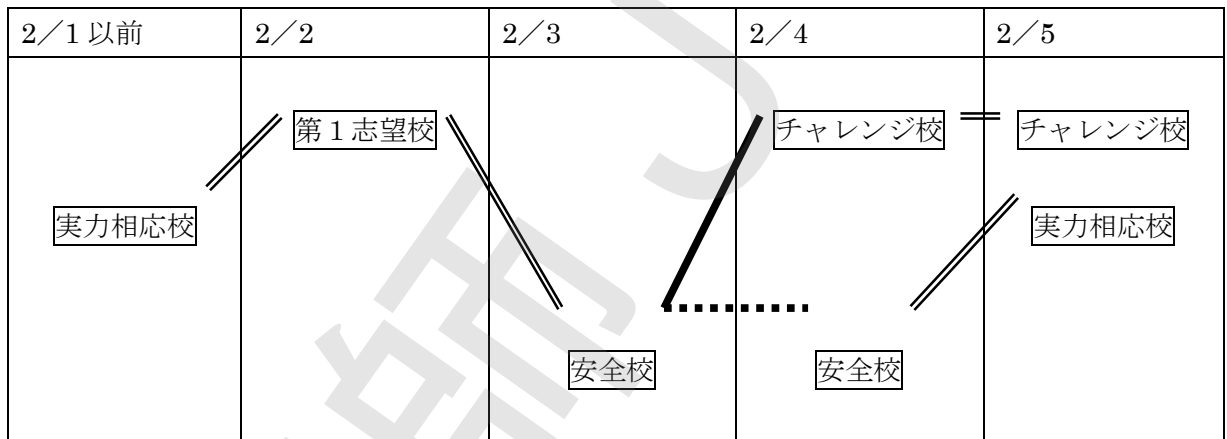
ただし、あくまで保護者が「お客様」であることを考えると、一方的に「これではダメです」と切って捨てるわけにはいかない。なので、言い方に気をつけ、慎重に再考を促すべき。また、入試直前になってこういうことにならないように、1学期の早い時期からコツコツと志望校調査をして、そうした「問題のある受験パターンを考えているご家庭」を洗い出し、保護者会や面談、電話などで少しずつ軌道修正をさせていくことで解決させるようにしていくことも大切。もしどうしてもうまくいきそうにない、あるいは自信がないという場合は、他の専任、主任、あるいは教室長などにも相談すること。要注意ご家庭については、特にこちらから働きかける前に主任などに確認しておくことも大切。

また、受験パターンの組み方としては、次のページのような例があります。

[2月1日に第1志望校の入試がある場合]



[2月2日に第1志望校の入試がある場合]



合格の場合
 不合格の場合
 合格・不合格にかかわらず受験

[全滅生を出さない]

ここではパターンを組む上で、「全滅生を出さない」という意図について述べます。保護者の中には「この学校に受からなければ公立中に進学させるから他のところは受けない」などと言う方もいますが、どうしてそれではいけないのか、ということについて、必ず理解してください。

◆子どもの心にトラウマが残る

一番の理由はこれです。「あれだけがんばってきたのに、どこにも受からなかった」という事実をつきつけられた子どもは、表面的にはともかく、しばらく立ち直ることはできません。特に、その後ほぼ全ての子が受ける「高校受験」において、確実にそのトラウマは

表出してきました。つまり、頑張ろうとしても「どうせ自分はダメなんだ」と思い込んでしまうのです。それが、全滅させてはいけない一番の理由なのです。

◆1校だけでも合格させてあげる

だからこそ、行く気があるとなかろうと、1校だけでも合格させてあげるべきなのです。もし諸事情で2/5くらいまで全くどこにも合格していない、という生徒がいるようであれば、**2/6以降の募集をしている学校について、「行かないことを前提」に出願し、そして受験させるということも保護者に働きかけてください。**そうすることで、「**自分はその学校には認めてもらったんだ**」という、ほんの少しではあっても、**自信を持つことができます。**それこそが、次のチャレンジに子どもを向かわせる原動力になるものなのです。

◆リベンジは高校受験でもできる!

中学受験の良い点のひとつでもあります。中学受験は最後の受験ではなく、また**高校受験でリベンジすることができます。**確かに高校からの募集をしていない学校はありますが、「夢破れる」ことになる場合もありますが、それでも「次がある」というのは重要です。

そういった点について、講師である我々がまず理解して、必要なタイミングにおいて保護者に話ができるようにしておきましょう。

【③：高校入試事情】

《1：高校入試のメリット・デメリット》

高校入試にも中学入試と同様、メリットとデメリットがあります。保護者とのトークの際に活用してください。

<高校受験のメリット>

- ・ 中学入試と異なり、ある程度**本人の意志が尊重**される。
主体性のある勉強を期待できる。
- ・ 附属校の場合、これ以降受験勉強がなく、**のびのびと生活**できる。
自分のやりたいことに全力投球できる。
- ・ 体力や精神力がついてきた段階で受験を迎えられる。
勉強をやり切る気力と体力がある。
- ・ 推薦入試などもあり、学校の成績がよければ**無試験で進学**もできる。
毎日コツコツ学校の勉強をしている生徒も報われる。
- ・ 上位校への競争は大学受験ほど厳しくない。
大学入試は全国から優秀生が殺到。高校入試であればライバルは関東まで。

ここまでは「いいこと」ですが、特に高校入試はデメリットの面がかなり「塾として見ると」あります。ある程度頭に入れておきましょう。

< 高校受験のデメリット >

入試システムが複雑すぎる。

入試制度を把握しておかないと不利になる。

高校からは募集しない学校もある。

中高一貫の名門校などはほぼ募集していない。 開成が募集しているのは貴重な例外。

上位校については**実力本位**。通知表の成績は通用しない。

特に私立・国立には全く通用しない。

学校の勉強、クラブ活動、委員会活動などに時間を取られる。

塾としてはこれが大変。習い事のスポーツなどもあり、**通塾すら困難になることも。**

入試日程がバラバラで広範囲になり、生徒にも講師にも負担が大きい。

中学入試であれば1月後半から2月上旬で終わるが、高校入試は1月中旬から2月末まで。生徒も大変だが、保護者との対応もある講師はかなり大変。

進路指導に「中学」が介入してくる。

特に公立中学は「推薦で早期に進学を決めさせよう」とするので、志望校を受験させてあげるためには、かなり「対中学向けの交渉」も必要。

特に受験指導をする上で一番苦勞するのが、「公立中学との兼ね合い」です。これについては後ほどまた説明しますが、中学入試のように「塾の勉強だけやればいい」のではなく、さまざまな対応が必要となります。

《2: 高校入試を巡る現状》

ここでは、昨今の高校入試のトピックを挙げ、指導をする上で最低限恥をかかないだけの知識を身につけて頂きます。

[トピック1] 都立高校改革

現在、都立高校は改革を進めています。すでに話題になっている「進学指導重点校」といわれる学校である都立日比谷、戸山、西、八王子東などは、すでに「独自入試(理社は共通問題採用)」を行っております。**本来都立高校は英数国理社の5科受験**で、その試験問題は全ての学校で共通としてきましたが、2002年の日比谷高校への独自入試採用以降、着実に独自入試校は増えてきました。また、すでに**学区制は完全に廃止**され、都内在住生であれば、今なら誰でも好きな学校を受験することができます。こうした都立改革と、不況下の影響からか、**都立高校受験倍率は微増**しており、また**受験辞退率も低下**しています。

【ポイント】

都立の改革の柱は、やはり進学指導重点校の「独自入試」である。かつて学区制が導入されて以後、もともと東大進学者数全国 1 位であった都立日比谷は完全に凋落してしまった。こうした「教育平等主義」的な思想によって、都内における公教育の品質が低下してしまったことから、一部の都立高校については予算を増額し、試験も私立高校並みの難問を出すことを容認し、人材確保にも融通を利かせることを条件に、「進学実績を出す」ことを目的とした改革を進めることとなった。現在では都内でも 10 校を越す都立高校で独自入試が導入された。自分が派遣される塾が都内であったのであれば、必ず近隣の都立高校において独自入試を行っているのはどこか、調べること。なお、独自入試は完全に「早慶附属校レベルの問題」を出題しており、英語などでは高校 2 年レベルの文法まで出している。なので、独自入試校希望の場合は、かなり厳しい勉強をしなければ合格できない、ということと言えるようにしておかなければならない。

こうした改革の結果として、2005 年 2 月の大学入試の結果、都立トップ校はおおむね東大進学者数を増加することができている。こうした都立改革を受けて、これまで都立の大学進学実績に対して懐疑的だった層まで動き出したのが、都立受験者数も微増しており、これからは少しずつ、「受かりにくい都立」ということになっていく気配がある。ただ、とはいえ依然として都立全体における競争率は実質 1.3 倍程度であり、数倍の倍率が当然の私立と比較すれば、まだまだ受かりやすい状況であると言える。

[トピック2]内申の絶対評価化

2002 年から都内の公立中学校で導入された「絶対評価」により生徒の通知表の成績(=内申)評価ですが、従来までの、あらかじめ5がつく人の数が決まっている「相対評価」に比べ、「子どもひとりひとりの頑張りを評価する」という名目のもと、「みんなががんばったのであれば、全員に 5 がつくこともありえる」絶対評価は、推薦入試や都立入試を左右する内申の結果に大きく影響する、といわれていました。結果として、やはり学校間の成績格差ができ、現在ではそうした偏りが起こらないように都から指導も入りました。また、観点別評価といった「テストの成績以外のことも評価する」ために導入された評価基準があいまいである、といったことも、問題として残されています。

【ポイント】

とにかく塾としては、内申は非常に大切であり、これがあるかないかでは受験パターンの組み方が大きく変わるものであるので、常に内申のあり方については関心を払ってもらいたい。

絶対評価と相対評価について、なかなかよくわからない、という人も多いと思うので、簡単に言うと、「絶対評価になったことで、確実に先生の主観が入りやすくなった」ということが挙げられる。前々から、「自分のほうが君より中間も期末も成績が良かったのに、どうして君は5で、自分は4なの?」といった問題は、相対評価時代から起こっていたが、こうした問題がさらに拡大しているのが現状。そして、生徒は先生に内申点を人質に取られている(内申がないと推薦が取れない、都立進学に不利など)ので、先生に文句も言えず、保護者が文句を言っても「テスト以外のことで評価している」と言われれば納得するしかないのが実情なのである。

また、5や4といった成績をつけることに制限がなくなったことで、「内申のインフレ」が発生した。そうした点を受けて、2003年の受験以降、私立高校の推薦入試の内申基準が高く設定されるようになり、また都立高校における「当日テストの点数」:「内申点」の比率が、以前はトップ校でも「5:5」、つまり合否判定の点数の半分は内申で決まるものであったが、今では多くの学校が「6:4」、トップ校はほぼ「7:3」と、確実に「テスト重視の入試」を行うようになった。

これは都内だけでなく、どこの地域でも共通するが、内申を軽視すると推薦入試が取れない、公立高校への合格が確実でなくなる、といった不利益が発生する。今後も内申改革は行われるだろうが、常に講師として関心を払っておきたい。

《3:基本的な学校区分》

高校受験には、私立・公立(=都立・県立など)・国立高校の3つがあり、それぞれに入試の難易度や受験システムに違いがありますので、しっかり理解しておく必要があります。また、特に高校受験は中学入試に比べ、前述したように「実力だけで決まらない」部分が多く、志望校に合格させるためには、「塾の勉強だけでOK」ではありません。こうした3種類の学校区分について知っておく必要があることは把握しておきましょう。

[私立高校の特徴]

- ◆ 問題の難易度が比較的高い(学校により上下差は激しい)
- ◆ 試験科目が英数国の3科目(開成高校は理社を加えた5科!)
- ◆ 学校により受験日が異なる(都内・神奈川は2/10~12に集中実施されることが多い!)
- ◆ 大学の附属校の場合、大学への優先入学の権利がある。
⇒進学型附属校は、自分の大学より上位の大学を受験する生徒を優遇する傾向がある。
- ◆ 一般入試では、入学試験の結果が最優先。基本的に中学の成績は関係ない。
- ◆ 推薦入試と一般入試がある。
⇒推薦入試はシステムが複雑怪奇なので後述。

※公立中は、おおむね生徒を「推薦入試で高校に叩き込もうとする」傾向があるので、生徒の受験パ

ターンには常に神経を配っていないと、気がついたら上位校合格確実な生徒が、中堅校に推薦入試で合格にされて、他の学校を受験できなくなることもある。学校から推薦を持ちかけられた場合、必ず塾に相談するように、という指示を生徒・保護者に対して徹底しておくこと。

[公立(都立・県立)高校の特徴] ※公立は入試制度が年々変わることがあるので要注意!

- ◆ 問題が易しい…全員が同じ問題を受けるため。
 - ⇒英数国の3科については「独自入試校」があることに注意。
 - ※都立国際高校は、英語のみ独自入試。完全に帰国子女レベル前提の試験。
- ◆ 内申(学校の成績)が合否判定に関係する。
 - ⇒内申が崩壊していると、本番で満点をとっても合格できない場合がある。
 - ※最近、都立については上位校を中心として、少しずつ「内申点の比率を下げ、当日の入試の点の比重を高める」方向で動いている。
- ◆ 試験科目が英数国理社5教科…一部学校で3科なので注意。
- ◆ 試験日は決まっている。
 - ⇒同都県内の公立校は全て同じ日程で試験。つまり公立は1校しか受けられない!
- ◆ 学区制度がある(都立は撤廃…誰でも受けたい学校を受けられる)
 - ※住んでいる地区により、通える学校が限られる。あるいは他学区校受験に制限あり。
- ◆ 推薦入試と一般入試がある。
 - ⇒公立の推薦入試は内申+面接(+作文)で決まる。ただし、推薦の場合は評価基準が不明瞭で、内申で満点だから必ず合格するわけでもない。
 - ※推薦は、場合により「受かったら必ず進学」ということがあるので(都立は受かったら100%進学)、滑り止めのつもりでの受験はさせられない。
- ◆ 近年、「自己PR書」により、志願理由や、中学時代の生活のアピールを提出させている。千葉は「志願理由書」。東京都は、PR書も得点化している。
- ◆ 千葉・埼玉は現在も「公立王国」。倍率で2～3倍近いので注意。
- ◆ 神奈川の難関校として有名なのは横浜翠嵐、湘南、希望ヶ丘、柏陽、横須賀、厚木など。
- ◆ 千葉の難関校として有名なのは千葉・千葉東、船橋、東葛飾(「東葛」と言われる)など。
- ◆ 埼玉の難関校として有名なのは浦和、浦和一女、大宮、川越、川越女子など。

[国立高校の特徴]

- ◆ 問題の難易度がとても高い。
 - ⇒難易度だけでなく、国立は募集数、学校数が絶対的に少ないことから競争が激しい。
- ◆ 試験科目が英数国理社の5教科…理社の難易度は大学入試に近いレベル。
- ◆ 試験日は固定で、2月13日。

《4:最低限知ってほしい用語》

ここでは高校入試に関して、最低限知っておいて欲しい用語などをまとめます。ひとつひとつは簡潔にしますので、確実に読んで下さい。(中学編と共通している部分があります)

[塾名] ※日能研と四谷大塚は完全に中学入試専門塾ですのでこちらには項はありません。

- ◆ 「**SAPIX**」…上位校受験に特化した塾。特に、開成高校・国立・慶應女子などに強いと言われている。
- ◆ 「**早稲田アカデミー**」…早慶附属校の実績では完全に他を圧倒。体育会系と言われるように元気がある。
- ◆ 「**市進**」…千葉の公立高校進学に抜群の実績を出している塾。現在は都内を含むかなり広範囲に展開。
- ◆ 「**栄光ゼミナール**」…展開校舎数、売り上げなどの規模が No. 1。出版部門も強く、作成している教材なども非常に良質。

[学校名]

- ◆ **開成**…都内私立男子最難関。東大進学者数全国1位の学校。中学入試の御三家の中で唯一高校募集をしている。2/10 試験。男子校。西日暮里。
- ◆ **慶応女子**…慶応の附属校。女子の中では最難関。2/10 試験。女子校。田町。
- ◆ **慶応義塾**…慶応の附属校。立地条件から「慶応日吉」とも。二次試験の面接あり。2/13 試験。男子校。神奈川の日吉。
- ◆ **慶応志木**…慶応の附属校。男子の早慶付属校最難関と言われる。二次試験の面接あり。一次の学科試験は田町の慶応大学キャンパスを使用する。2/7に一次試験。2/11 二次試験。男子校。埼玉県の志木。
- ◆ **慶応湘南藤沢**…慶応の附属校。高校からは帰国子女や特殊な条件を満たす(関東以外に在住していることなど)人以外受けられないので注意。二次試験の面接あり。2/13 試験。共学。神奈川県の湘南台。
- ◆ **早大学院**…早稲田の附属校。「早稲田大学高等学院」。たまに「早高院」と略されることも。早稲田系では非常に人気あり。試験は英数国+1200字の小論文。ひとりにつき30分近く話す面接主体の推薦入試で200名以上取る。試験会場は早稲田大学の早稲田キャンパスで。2/11 試験。男子校。西武新宿線の上石神井。
- ◆ **早稲田実業**…早稲田の附属校。最近共学になった。現在は移転して国分寺。試験も国分寺で実施。女子の募集数が少ないため、入りにくさは慶応女子に匹敵してきた。2/10 試験。共学校。国分寺。
- ◆ **早大本庄**…早稲田の附属校。場所が埼玉の奥深く本庄にあるため、都内からの通学は事実上無理。学校斡旋のホームステイ(委託ホーム)制度がある。遠方な分だけ設備などは抜群で、部活を頑張りたい受験生には人気。一次試験は早稲田大学早稲田キャンパスで、

二次試験の面接は本庄で。通う意志が本当にあるか確認する面接なので注意。**2/9 一次試験**。男子校。本庄(高崎線) or 本庄早稲田(上越新幹線)。

- ◆ **青山学院**…別名「青学」。共学校として人気高い。女子は**2/12 最難関**。渋谷。
- ◆ **中大系**…中大杉並、中大附属、中大高校と紛らわしいため注意。特に九段下の中央大学高校は「**昼間定時制**」という特殊な学校であるため、**中大系の場合はどこなのか正式名でよく確認**すること。

※ 学校については、派遣された塾の受験パターンなどを見た上で、その地域に特化した情報をベテラン講師や、各塾で行われる研修などで身につけること。

[それ以外の用語] ※「ダブル出願」などは共通するので中学入試編も見ておいて下さい。

◆ **他県受験**…都内と神奈川の私立受験が2/10 から開始であることを踏まえ、千葉・埼玉は1 月後半～2 月初頭から始まるので、そちらを「事前受験」として「力試し」「押さえ校」として受けるというもの。多くの場合遠方での受験のため、敬遠する保護者もいるが、本命校の前に力試しはしたほうがいい生徒もおり、数多くの受験生が参加する。そのため、この時期の千葉・埼玉受験の受験者数は跳ね上がっているが、必ず合格者が進学するわけではないので、倍率自体はかなり抑えられる。また、高校生ともなれば、多少遠方であっても体力的に通学できるので、「進学する覚悟」で受験する生徒も多い。

◆ **業者模試**…だいたい**中3の9月あたりから本格的に始まる志望校判定用の模擬試験**。複数の業者が似たようなテストを実施しているので、自分の塾がどこの模試を採用しているのかなど確認しておくこと。また、必ず申し込みが必要なので、志望校判定のためにも生徒に受験させること。ただし、「**駿台公開テスト**」という模試は、完全に特殊であり、**テストの内容は超上位校に特化した内容**になっている。なので、中堅以下の学力しかない生徒が軽はずみに受けたり、あるいは安易に勧めてしまうと、大幅に低い偏差値が出てしまうので(通常の模試で偏差値60の生徒に、偏差値40くらいが出てしまう)、それを見て「成績が落ちた」と勘違いする保護者が出て、トラブルのもととなる。

◆ **宗教系**…内容的には中学入試を参照。高校入試だと、**生徒も保護者もあまり学校の宗教にはこだわらないことが多い**。ただし、ご家庭が宗教を持っている場合は別なので注意。また、**相手の信仰に踏み込む発言は大変なトラブルを引き起こすことがある**ので要注意。

《5:複雑な入試システム》

公立学校の内申点を入試の合否基準とするシステムや、私立高校の推薦入試のシステムなど、高校入試のシステムはかなり複雑怪奇となっています。なので、その中で最低限必要な知識についてここではまとめます。実際に生徒を担当すると、もっと詳しいことを知らなければならなくなりますが、まずは基本として理解してください。

[公立高校]

○一般入試:

日時…各都・県ともに一定。全校が同じ日時に試験を行う。⇒1人1校受験が原則。

形式…英数国理社の **5科**の学科試験+ **内申点**。

特徴…都立のトップ校をはじめとした学校では英数国は独自入試で実施。最近では、合否判定は学科試験の比重を高めている。

○推薦入試:

日時…各都・県ともに一定。全校が同じ日時に試験を行う。ただし、必ず一般入試より前に実施。⇒1人1校受験が原則。

形式…**内申点+面接(+作文)+調査書**(中学から出される)(+適性検査:一部の学校で)。

特徴…公立の推薦は、出願基準などはないが、内申がなければ合格できないので、中学側から受験許可が下りないこともある。また、**合格した場合は「絶対に進学すること」が条件**なので、本命でなければ受験してはならない。内申がオール5でも上位校の場合「合格するとは限らない」ので、**「ギャンブルのようなもの」**だと思って受けないと、ダメージが大きい。**精神的に弱い子は、受験させないほうがいい**かもしれない。また、県により適性検査という名目で学科試験を行うところも。

[私立高校]

○一般入試:

日時…各都・県により解禁日があり、それはまちまち。また、試験日は学校ごとに異なる。**埼玉・千葉はおおむね1月末~2月頭、東京・神奈川は2/10~2/13**が大半。

形式…**英数国**の学科試験で判定。**内申点の成績はまず加味されない**。※開成のみ5科。

特徴…前述したように「当日のテストの点重視」。さすがに**上位校は内申に1があったりすると面接で聞かれたりすることがある**。または、ボーダーラインにいる生徒の場合は、調査書の内容も見て判断しているらしい。

○推薦入試:

日時…基本的に私立一般入試よりも前の時期に実施。日程は同都県の中ではほぼ重複。

形式…基本的には**内申+面接(+作文)**などで判断されるが、**上位校などでは独自に「適性検査」という名目で学科試験のようなものを実施**。青学などが代表的。偏差値的に中堅以下の学校は、内申が基準点に達していればそれだけで合格となるが、**上位校の場合は内申は「足きり」**に過ぎず、単に「推薦試験を受けられるだけ」なので、注意。

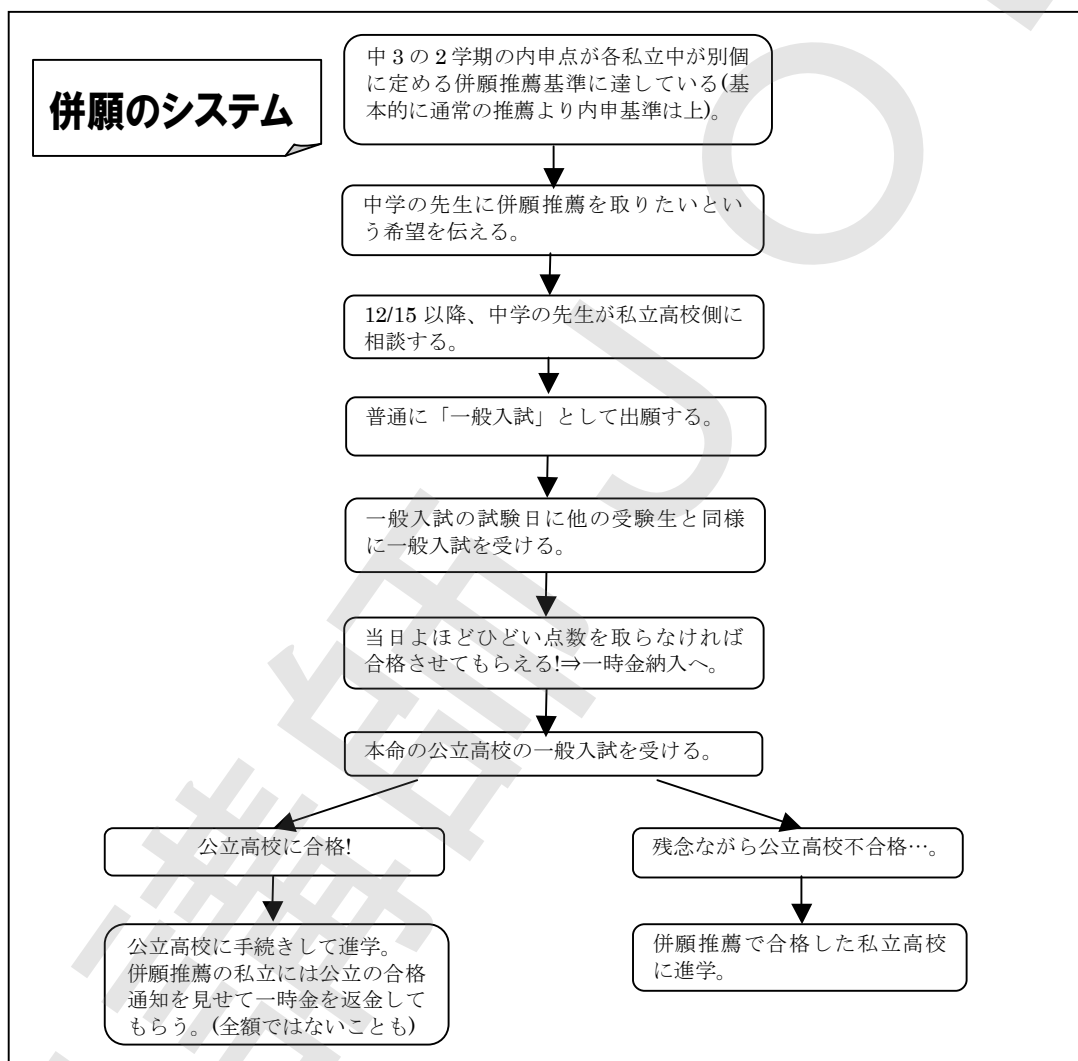
特徴…基本的に**私立の推薦は「合格したら必ず進学する」、つまり「第1志望の人だけが受けるもの」**。その分、中堅以下の学校は生徒確保のために活用している。だから、私立の推薦の場合は「他の学校が受けられなくなる」ので注意。

○併願推薦:

日時…一般入試と全く同じ。

形式…一般入試と同様の試験を一般入試の日に受験する。

特徴…最近流行の推薦システム。基本的には「本命は公立なんだけれども、内申がいいのでその前に推薦で私立の押さえを取っておきたい」というニーズにこたえたもの。流れとしては以下のようなになる。



メリットとしては、本命の公立受験前に、内申がよければほぼ確実に合格できる押さえとなる私立校を確保できるということ。私立学校側としても、公立本命だったけれども、残念ながらそちらを不合格になった優秀生を確保できる可能性がある、という利点がある。ただし、併願の推薦基準は通常の推薦基準よりもかなり高いため、併願は優秀でないと取れない。

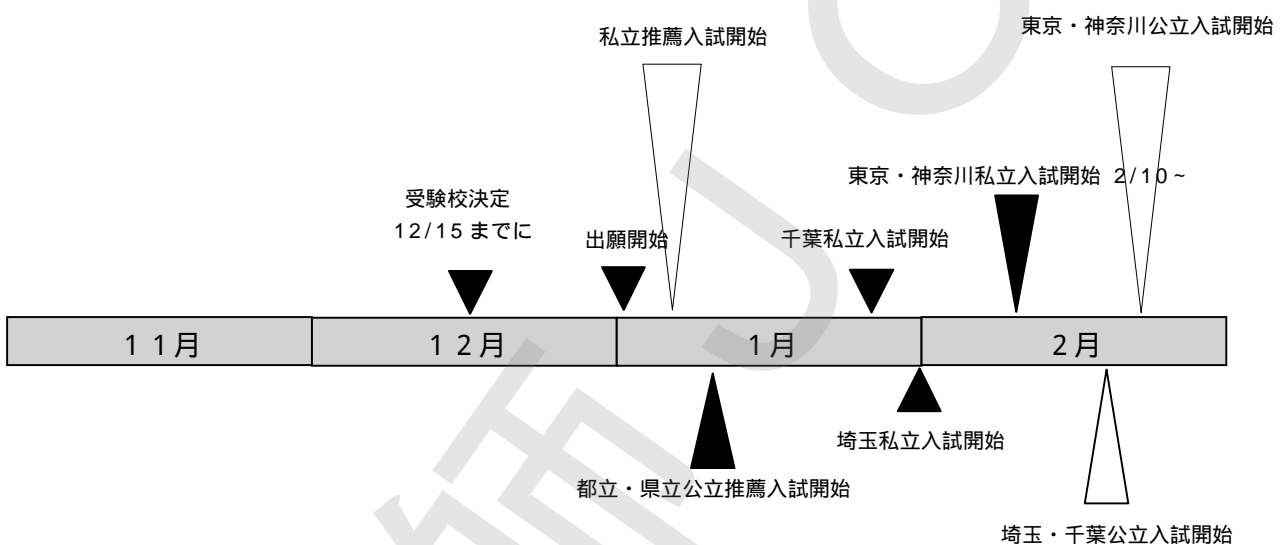
なお、最近では「自分の学校より上位の私立高校であれば、併願を認める」という私立高校も出てきており、併願推薦を活用することで、より確実に幅広い受

験ができるようになる。こうした私立がどこであるかは実際に高校に確認が必要。
 ※ただし、私立上位校はまず併願推薦をしていないので要注意。だいたいの塾には「私立高校の推薦基準一覧」などが業者から届くので、それを参考にして進路指導をする。

《6:受験パターンと受験日程》

ここでは、中学入試の試験日程について確認するとともに、そこから逆算してのそれぞれの時期の動きと、受験パターンの組み方について確認します。

[受験日程]



[日程から逆算しての動き]

- ・ 12月半ばまでに受験校を確定するためには、**遅くとも11月中には塾と保護者・生徒との間で受験校について合意**を取る必要がある。そのため、**9・10月の志望校判定模試などをしっかり受けていないと判定データがない**ことになってしまう。保護者、生徒に模試の意味を徹底し、申し込みさせる必要性あり。
- ・ 受験校確定に向けては、対中学側の交渉が必要。そのため、**10月～11月は保護者と塾とが密接な連携**をとり、学校側に言質をとられないようにする必要あり。
- ・ 1月に入ると**推薦入試**が随時始まる。場合により、**この時期に受験が終わる生徒が出る**。なので、そうした生徒がその後勉強を継続しないと、一般受験を最後までがんばった生徒との間に**学力格差が出て、高校進学時点で出遅れる**ことになる。
- ・ 2/10に都内私立および神奈川私立の一般受験開始。ここから12日までに私立の大半の受験日程が入っている。ここは毎日が戦場。
- ・ 私立一般受験の後に公立受験がある。なので、公立本命の生徒が、私立をどこも出願せずに、公立だけを受けるということになると、公立に不合格になるとどこにも進学できないということになる。これは、私立本命の生徒が公立を出願していなくても同様のこ

とが起こる。なので、本命校受験に不安がある生徒の場合、本命が私立であれば公立も、本命が公立であれば私立にも、出願を考えることも選択肢の1つとなる。特にこれについては、**「公立受験終了後に入試日程がある学校はほとんどない」**こと、そして**「私立の受験の結果を見た後から公立の出願はもうできない」**ことは、知っておく必要があります。だからこそ、先手を打つ必要があるのです。

【受験パターンの組み方】

基本的に中学入試と変わらない点が多い。ただし、中学入試と比べ、**「中学側からの介入がある」「試験日程が長い」「複雑なシステムがある」**という点から、非常に手間がかかる部分がある。そのため、**初年度の講師は大抵ベテラン講師や専任講師のやり方や言い方を見て、そこから翌年以降どうすればいいかを学ぶ**ことになる。

【④：おわりに…これから仕事に就く方へ】

ここまで書かれた内容について、今すぐに「全てが身につけていなければならない」というものではありません。というより、いきなり読んで、全て理解しろ、というのが無理な話です。実務についてから、ようやく受験情報の大事さが理解できるはずです。

この資料は、我々**塾講師JOB**のスタッフの実務経験の中で「知っていたほうが良い」「これを知らないと大変なことになる」と思うことについて、独自の方法でまとめたものです。こうした受験情報の資料・冊子は、一般書店でも非常に多く出版されています。ただ、なかなか**「塾講師として何を知っているべきか」**についてまとめたものはありませんでした。そんな、「塾講師として知っているべきこと」を知らないために発生する辛い経験を、皆さんにはしてほしくない、という意図から作られたものです。

仕事が始まれば、しばらくはなかなか受験情報を学んでいる時間はありません。「教える技術」「教えるための科目知識」に集中せざるを得ないからです。だからこそ、**まだ仕事が始まっていない今の時期に、どれだけのことを身につけておけるかが大事**になります。

「はじめに」にも述べたように、ぜひ、皆さんがこの資料を活かしてくれて、「良い講師」になれることを祈っています。そして、**この資料はあくまで「受験情報」を学ぶ上での「はじめの一步」**です。ここから、皆さん自身のたゆまぬ努力での進歩を、期待しています。

頑張ってください。応援しています。

(株式会社よしなに【塾講師JOB】スタッフ一同)